

令和4年度第1回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 令和4年9月8日（木） 午後1時00分～午後2時00分

【ところ】 池田市役所 3階 議会会議室

【出席者】

■委員：中川会長、村瀬副会長、福井委員、真崎委員、荒木委員、村上委員、牛嶋委員

■事務局：水越総合政策部長、塩川総務部長、森本総合政策部次長兼財政課長、松永人事課長、檜垣行財政改革推進課長、行財政改革推進課富永主幹、行財政改革推進課奥田主任主事、行財政改革推進課阪上主事

【傍聴者】 0名

【内 容】

1) 開会

＝事務局から配付資料の確認＝

2) 議事

案件1：池田市行財政改革推進プランⅢ令和3年度最終報告(案)について

＝水越部長から中川会長に「令和3年度における池田市行財政改革推進プランⅢの取組状況に関する意見依頼書」を手交＝

＝事務局から配付資料について説明＝

＝質疑応答（抄録）＝

委員：6ページ以降の各取組状況の中で、達成状況について、先ほどの事務局の説明では、所管課が自己判断するとのことだが、新型コロナウイルスの影響により中止した場合、それ以外ができていたら「○」になっていたり、一方では同じ状況でも無印になっているものがある。具体例を挙げると7ページ「東京オリンピック開催に伴う市内企業や各種団体などの市民参画の推進」について、聖火リレー等は中止になったが、パラスポーツフェスタやホストタウン関連展示会は開催している。他の取組を見ていると、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった部分もあるが、それ以外ができていれば基本的に「○」になっているのかなと認識していたが、この取組はそのようにはなっていない。また、達成状況についてもう一点あり、「－」となっているものの意味がよくわからない。具体的には、10ページ「転入外国人向けに「多言語版生活ガイド」の発行」について、令和3年度の目標が「－」になっているが、達成状況が無印である。このようなパターンもあれば、14ページ「クリーンセンターの運転管理業務の民間委託の検討」については、同じく目標が「－」

であるが、達成状況が「○」になっている。また、24ページ「池田保健所の移転とそれに伴う施設配置の検討」と「都市計画法施行条例の制定による事務処理の効率化」は同じく目標が「－」になっており、達成状況も「－」になっている。このように達成状況の定義について、特に新型コロナウイルスの影響があった場合それをどう評価するのかがわかりにくいのかなと感じた。新型コロナウイルスの影響で実施できなかったのであれば、その分を除いてできたかどうかで判断し、できたのであれば「○」、できていないのであれば無印とする。また、令和3年度の目標が無く「－」なのであれば、達成状況が無印だと何もしていなかったり、達成できていないと思われるかもしれないので、その場合は「－」で統一するなど、そういった部分を工夫した方がもう少し見やすくなるのではないかなと感じた。

事務局：令和3年度の実施目標が「－」になっているものについては、令和2年度までで取組が終了しており、その結果、達成状況を「○」としているものもあるが、ご指摘のとおり統一できておらずわかりにくいので、全体として統一的に調整させていただきたいと思う。また、「東京オリンピック開催に伴う市内企業や各種団体などの市民参画の推進」については、メインである事前合宿や聖火リレーなどが中止になってしまったというところで、担当課としては、達成できていないと判断したが、全体と統一的に調整した上で担当課にも再度確認を行いたいと思う。

委員：新型コロナウイルスの影響で実施できなかった場合は仕方がないと思っており、メインの取組ができなかったとしても、実施しないという適切な判断を下していると思うので、それをもって達成とするのも一つであると思う。また、新型コロナウイルスの影響下で色々なメニューを用意し、できるだけ工夫して実施できたのであれば、達成したという扱いでもいいのかなと思う。

委員：まず3ページから5ページにかけての目標達成状況について、どれも上手くいっているように見えるが、報告書に記載するかどうかは別として、今後の課題があれば教えていただきたい。また、数値としてはどれも良くなっているが、5ページ「③勤務時間の弾力運用の取得状況」について、取得件数が年々下がっているのは課題として捉えているのかどうか。また、6ページ以降の各取組状況の中で、具体的な内容が書いているものもあれば、抽象的な記載のものもあり、その温度差が気になった。見る側としては、なるべく具体的な内容が書かれている方が当然理解しやすいと思っている。例えば、13ページ「地域分権推進基金の活用」の中で、「約1千7百万円の基金を取り崩し、実施不能な中・長期的な事業の実施が可能となった」とあるが、具体的に何をしたのかが気になるので、備考欄に具体的な記載があると非常にわかりやすいと思う。また、同じく13ページ「AI技術などの新たな技術の導

入による事務処理の効率化とサービスの向上」の中で、「ペーパーレスシステムの導入を行い、事務処理の効率化を図った」とだけ書かれている一方で、14ページ目「AI技術を活用した保育所入所選考に係る事務処理の効率化」のように人件費相当額の75%削減など、明確な数値やそれに対する実績が書かれており、これらの濃淡が気になるところである。やはり何がどれだけ効率化できたのかということを具体的に記載した方がわかりやすいと感じた。

委員：概ね詳しく具体的に書かれているので、わかりやすくなっているなどと思った。13ページ「AI技術などの新たな技術の導入による事務処理の効率化とサービスの向上」について、実際に保育所でAIを使われた先生の感想を聞いたところ、前と違って効率的に保育所の選定がなされたということであった。それに対する不満の声もあるようだが、このような効率的な取組については、もっと具体的に書かれていると良いなどと思った。また、17ページ「低区配水池の跡地活用の検討」の中で、用語解説にも説明はあるが、具体的な場所がどこなのか教えてほしい。渋谷の配水施設の工事が行われているのは、この取組に該当するのか。

事務局：低区配水池の取組については、五月山体育館付近の場所に使っていない配水池があり、今は駐車場になっているがその下に耐震性貯水槽をつくった事業である。渋谷の配水池については、現在も使用しているものである。

委員：全体的に見やすい資料となっており、読みやすかった。まず質問になるが、4ページ「(4)「働き方改革」の推進（職場環境の整備）」について、前回の委員会においても、年次休暇の取得日数10日ということが議論になったと思うが、今後は、10日取得する人の割合を高めていくことをめざすのか、あるいは、12日や15日と取得日数を増やす方向で進んでいくのかといった今後の方向性が今の時点であれば教えてほしい。ここからは感想になるが、6ページ以降の各取組状況について、実施目標や取組実績の文字が小さい。もう少し読みやすくしていただける方が、頑張っ読もうという気になる。枠組みの外側には余白があるので、その辺のバランスを一考していただけると嬉しい。また、他の委員からも指摘があった達成状況については、私も気になっており、今後の課題やコロナ対策でのWEBによる代案など次へつながることが書かれていれば、継続して改革が進んでいく感じが出るので必要なことではないかなと思っている。また、19ページ「現年徴収率向上と納期内納付の定着」について、実施目標99.41%に対して、取組実績も99.41%になっていることが、実績ありきでそこに数字を合わせているように感じられる。99%に達すればもう問題ないという印象を個人としては受けており、小数点まで合うというのは不自然に感じた。加えて、24ページ中の「オーパスシステム」、28ページ中の

「セキュリティインシデント」、「セキュリティポリシー」を用語解説に追加していただきたい。

事務局：「現年徴収率向上と納期内納付の定着」について、努力すれば現実的に達成できるだろうという数字を目標に掲げているところはある。それについて、目標として妥当なのかというご意見もあろうかとは思いますが、たとえ 0.01%刻みであっても徴収率を上げることはかなりの努力を伴うものであって、実現可能な目標として掲げた数値と実績値とが結果的に同一であったということであり、作弄的にそうしたわけではない。

委員：意見というより感想になるが、他の委員も言われているとおり、3ページからの目標達成状況について、実績ばかりが書かれており、目標に対してこれだけ達成しましたという風にした方がわかりやすいと思った。また、6ページ以降の各取組状況においては、目標達成について今後の課題等を備考欄に書いていただいた方がわかりやすいと思った。

副会長：3ページ「(1) 財政調整基金残高(各年度末)の推移」について、目標の令和4年度末20億円以上に対して、令和3年度末で約49億円残っており、ものすごく順調であるかのように見える。しかし、私自身として、大きく取り崩さないといけないような工事をまだ実施していない結果、このようになっているという理解であり、目標に対する見通しを市民の方に示すことができないものかと思っている。また、3ページ中の各種実績について、速報値との記載があるが、今の段階でも速報値であればやむを得ないが、そこを確認してほしい。また、年次休暇の取得状況については、委員の皆様が言われたことと共通しているが、この実績をどう評価するのか、見る人に任せるのか、市としての考え方としてより一層の取得をめざすのかというあたりもお示しになられてはいかがだろうか。私の感覚としては、取得できていない会社に比べたら多いのかもしれないが、本来はほぼ取得できるような状況が望ましいとも言えるので、数字だけ載せて評価を見る人任せにするのは疑問に思う。また、6ページ以降の各取組状況について、実施目標を立てる時点で、行財政改革の目的に適った適切な目標を掲げていただくべきなのではないかと考える。細かい記載については、21ページ「ふるさと納税制度の活用によるみんなで作るまちの寄付の募集」について、取組実績の中で、「新型コロナウイルス感染症対策 生理の貧困等女性問題 対策プロジェクト」のための寄附を、クラウドファンディング型ふるさと納税として受付し寄附が集まったとのことだが、その結果どう活用されたのかを備考欄に記載した方がよいと思う。

委員：13ページ「AI 技術などの新たな技術の導入による事務処理の効率化とサービスの向上」について、RPA や AI の活用という、自動化されて人がさわらなくても処理されるような近未来的な業務を検討するという目標に対して、実績はシステムを有効活用したという旨であり、次元が違うのではないかと感じている。目標に対して、備考欄では RPA や AI の活用の記載があるが、取組実績欄には RPA や AI の活用の検討結果が何も載っていないと思う。検討したのであれば、実績に書いた方がよい。できていないのであれば、翌年度以降にきちんと検討するか、また、今は検討の段階ではなく、システムの効率化を図ることに軸をずらしてもよいと思う。目標、実績、備考がつながっていないと感じた。

副会長：実施目標と取組実績についてだが、中間報告及び最終報告を議論する委員会の段階では、目標が既に立てられており、目標に対して意見の言いようがない。本来であれば目標を立てられるあたりで、意見を述べられる機会があってもよいのかなと思う。やってみたが、目標に対する意見は出なかったということもあるかもしれないが、試行的に、目標を立てられる時期に、このような場を持つてもいいのではないかなと思う。

会長：池田市の行財政改革の目標は、財政調整基金残高、経常収支比率、実働職員数、働き方改革の推進、安定的な財政構造の確立というような非常に穏やかな書きぶりであり、これでよいと思ってきた。しかしながら、次からはこのような観点が導入できるかなということを研究していただけたら、ということ述べようと思う。行財政改革というのは、コストダウン、いわゆる費用を下げていくことに力点が置かれることが多く、また公共経営において民間に学ばなければならない点でもあるが、RPA や AI の導入にいわれるようなパフォーマンスを上げる改革に視点をシフトされてはどうかと感じる。他の委員からもご指摘のあった RPA や AI の導入の話については、コストダウンばかりを考えているのではなく、パフォーマンスを上げるという点での効果を目指して定めるべきであり、またその記述がほしいということではないかと私には聞こえた。下げるばかりでなく、出力を上げるということももっと記述していいのではないかなと思う。また、勤務時間の弾力運用の取得状況については、他の委員からもご指摘のあったとおり、年々下がってきているというのはとても気になるデータである。これについてはもう少し分析記述を加えた方が良心的ではないかなと感じる。そして、財政的には池田市は非常に手堅く破綻の無い運営をしており、高く評価している。しかし、新型コロナウイルス感染症関係の交付金が国から各自治体に非常に多く交付されており、それにより見かけ上は財政的に好転しているように見えている。ただし、当該年度会計上の話なので、この交付金が

無くなった時にどうなるのかという危機感を持つ必要があり、引き続き油断はできない旨の記述が必要なのではないか。

事務局：新型コロナウイルス感染症関係の臨時交付金について、今年度については、池田市は3億円から4億円程度いただいているが、それについては給食費の無償化に使わせていただいた。令和3年度の形式収支が黒字になっている大きな要因としては、3ページに記載させていただいているとおり、地方交付税が大幅に増加したことが挙げられる。しかし、これについては、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時的なものであるため、会長のご指摘のとおり来年度以降は非常に厳しくなる可能性もある。したがって1ページの「はじめに」にて市長より、依然として厳しい状況に変わりないという旨を書かせていただいているところである。

会長：先ほどの副会長から指摘のあった、財政調整基金について、残高が49億3千4百万円あるのは、公共支出抑制をしていることに伴う結果ということであれば何かしらのコメントを入れる必要があると思う。そうではなく、公共施設総合管理計画に基づいて、リニューアルをしっかりとやっている上での結果であれば特に必要ないと思う。

事務局：今の段階では公共施設総合管理計画のとおりにやっており、財政調整基金残高を踏まえながら、次にどうやっていくのかという新しい方針を検討している段階である。現状については、リニューアルや施設の統廃合は終わっているが、今後、老朽化施設も増えていくため、それらの手立ても講じていかなければならないと認識している。

副会長：クリーンセンターの改修は終わったのか。

事務局：基幹改良ということで、炉の更新は完了した。10数年後の話になるが、建物自体の更新の話は今後出てくる。当面の課題であった炉の更新については終わっている。

委員：他の委員も指摘されている働き方改革について、働き方改革が改革の目標の一つに入っていることは素晴らしいと思っているが、やるのであれば、もっと踏み込んでやってほしいなと思っている。そのためには、現状をもっとしっかりと見ていく必要がある、報告書に記載されている数字だけでは、職員の方々のモチベーションや労働環境についてどう思っているのかがわからない。現在は従業員サーベイや従業員満足度サーベイなど色々なサービスがあり、私が所属している企業では、毎年そ

の結果を基に組織やチーム毎の弱み改善のために取り組んでいる。是非、働き方改革については、今後も改革の柱の一つとしてより踏み込んでいくような取組をしていただけたらと思う。

3) 事務連絡

事務局から委員会の今後の予定について説明

4) 閉会

次回の開催は令和4年9月27日(火)

以上